

「看護婦養成所」の歴史 — 医学部保健学科の源流 —

現在放送中のNHK朝の連続テレビ小説は、日本の看護師の草分けである大関和と鈴木雅をモデルにした2人の女性が主人公です。ドラマでも史実と同様、2人は1880年代後半に「看護婦養成所」で学んでいますが、名大の前身学校にも同様の養成所がありました。

愛知医学校に看護婦養成所看護科が産婆養成所産婆科とともに設置されたのは、1894（明治27）年8月のことです。当時の日本では、統一された看護師の身分や資格は確立されておらず、国が「看護婦規則」を定めたのはようやく1915（大正4）年のことでした。

1903年に愛知県立医学専門学校附属看護科となりますが、1923年には愛知医科大学附属看護婦養成所と名称が養成所に戻りました。1927（昭和2）年には病院直属となり、附属病院看護婦養成所と改称しています。名古屋医科大学を経て、1939年に名古屋帝国大学医学部が設置されると、医学部附属病院看護婦養成所となりました。

入学資格は、一貫して女性に限られました。1939年度には独身であることも加わっています。年齢は、当初は満20歳以上でしたが、次第に若くなり、1914年度には満14歳以上になりました。学歴は、当初は仮名の文章が分かればよかったです。1899年には高等小学校の卒業に係わる事項が規則に追加されました。

修業年限は、当初は1年でしたが、1903年度からは1年6カ月、1916年度以降は2年とされました。1927年度からは学資が、31年度からはこれに代わり「看護婦見習」としての日給が、生徒に支給されるようになりました。ただ、卒業後1年間（1939年度からは2年間）は附属病院に勤務することが義務づけられました。

第2次世界大戦後、1951年に医学部附属看護学校、1977年に医療技術短期大学部看護学科となり、1997（平成9）年10月に医学部保健学科看護学専攻（他に4専攻あり）が設置されて現在に至ります。



- 1 愛知病院（愛知医学校・愛知医専の臨床病院）の看護師たち（愛知医学校時代か、名古屋大学附属図書館医学部分館所蔵）。愛知病院では、1891年9月に男性の「看護人」を廃し、以後は「看護婦」と呼ぶようになった。
- 2 愛知医専附属看護科・産婆科の1915年3月卒業記念写真（大学文書資料室所蔵、写真3～5も同じ）。写真の18名のうち9名が看護科の卒業生。
- 3 愛知病院の看護師たち（前列、愛知医専1921年卒業アルバムより）。
- 4 名帝大医学部附属病院看護婦養成所の卒業記念写真（1942年）。この時の卒業生は全部で108名。看護婦養成所は、敗戦直前の1945年6月に厚生女学部と改称された。
- 5 名帝大医学部附属病院看護婦養成所の授業風景。

名古屋大学の卒業生、
現役・退職後の教職員の方々へ

名大史をつむぐ資料を
大学文書資料室に!



■ 在学時の配布物

（学生便覧、シラバス、試験問題、課外活動の資料…）

■ 教育・研究活動、大学・部局運営に関する資料

（各種書類、会議のメモ、備忘録、スクラップ記事、写真…）

■ 校費による印刷物・刊行物

（冊子、パンフレット、ポスター…）

■ ご退職関係の記念冊子・記念論集・業績集… など

※その他、ご処分予定の資料についても、まずは下記へご一報ください。

東海国立大学機構大学文書資料室

TEL 052-789-2046

Mail archives@t.thers.ac.jp